

◆◆◆ 小1プロブレムって? ◆◆◆

新入学児童が教師や友達、環境の変化に適応できないことが原因で、授業中に騒いだり、動き回ったりする問題。道教委によると、2020年度の道内の小学1年の不登校児童数は16年度の2.9倍と増加傾向にあり、児童が学校生活にスムーズになじめよう、幼稚園と保育園、小学校の連携の充実などの対策が必要とされている。

授業と関係ないことを話す

授業中に席から離れ、立ち歩く

授業の内容と関係なく好きな歌を歌う

登校を渋る

◆だるまさんが転んだ
鬼役の子供が顔を背けている間に走り、振り向いた時は停止する

◆かくれんぼ、鬼ごっこ、缶蹴りなど

◆読み聞かせ
紙芝居や仕掛けのある絵本など

◆料理

◆ドミノ倒し

◆寝る前に約10分間のマッサージ
頭や足の裏などをほぐす。強さを調節し、心地よさをつけてあげる。心地よさについて聞いてみる。

◆◆◆ 背景 ◆◆◆

保育園・幼稚園

遊びや日常生活を通じて学ぶ

小学校

席に着いて国語や算数、体育などの教科の授業でじっくり学ぶ

自分を抑制しなければならない機会の増加
環境の変化に戸惑い、心と体がうまく適応できない

先生の話に集中できない 座っていられず歩き回る

「先生の話に集中できない、席に座っていられず教室外を歩き回る」。小学校に入學したばかりの新1年生の問題行動「小1プロブレム」。幼稚園や保育園とは全く異なる環境になじめず、不安や戸惑いを感じることで背景にある。周囲の大人が目配りし、早期に対応することが重要だ。

「お話を聞いて、手を膝の上に置いてください」。新1年生の教室で、担任が子供たちに語り掛けた。大半の児童がおしゃべりをやめたが、1人の児童が買ってもらったばかりの消しゴムで遊び続けている。担任や隣席の子供が声をかけてもやめない。この児童の後ろの席の児童も、つられたように話し始めた。次第に教室全体がざわつき始めた。

「緊張」と「緩和」を繰り返して体験し、集中力や抑制力、周囲への観察力などを身に付けられる。

「次はどうなるだろうと、じっと待つことに慣れる。待つ後の変化に楽しさを感じる。」

学校のルールに合わせなければいけない緊張感から離れ、自分に合わせてくれる安心感を得られる。

学校のルールに合わせなければいけない緊張感から離れ、自分に合わせてくれる安心感を得られる。

齋藤准教授は「小学校に入ると、先生の指示を聞いたり、待たせたりと、自分を抑制しなければならない機会が増える」とした上で「抑制する力を育んでいく必要がある」と指摘する。

齋藤准教授によると、抑制する力を育むために、効果的なのは遊びを活用すること。例えば「だるまさんが転んだ」。鬼役の子供が顔を背けている時に走り、振り向いた時は立ち止まる。「緊張」と「緩和」を繰り返して体験することを通じて、集中力や抑制力、周囲への観察力などを養えるという。「次はどうなるだろう」と、じっと待った後に楽しさや面白さを体験できる読み聞かせをはじめ、ドミノ倒しや料理もお勧めという。

朝になると登校をしぶるようなケースには明確な理由はなく、ある種のパニック状態だという。齋藤准教授は家庭でできる対処法として「体の感覚で感じる安心感を与えてあげて」と話す。低学年のうちには、体の感覚と気持ち、言葉が必ずしも連動していないため、体の感覚を重視する必要があるという。

例えば、寝る前の10分間、子供の頭や足の裏を心地よい強さでもんでやる。学校のルールに合わせてなければいけない緊張感から開放され、リラックス。じっくり眠れるなどの効果がある。もむ強さの具合や心地よさを聞いてあげることも効果的という。

新型コロナウイルス禍で友達と遊ぶ機会が少なく、状況が続いていることもあり、齋藤准教授は「体や心の準備に少し時間がかかる子もいる」と理解し、あまりせかかす付き合い方をしてほし」と話す。

「小1プロブレム」抑制力育んで

遊びで鍛える集中力 ■ 家では緊張感ほぐす

幼小連携 道内各地で

年長の園児招き交流 / 授業を15分で区切る

新1年生が学校生活に早く慣れるためには、地域にある小学校と幼稚園・保育園と連携を強化することが重要だ。子供同士の交流を深めるなど「幼小連携」の取り組みが道内各地で行われている。道教委は、小学校と幼稚園や保育園の教育を円滑につなぐことを目指し、2019〜20年度の2カ年の幼小連携・接続モデル事業を実施。根室管内別海町、富良野市など、道内5自治体をモデル地区に指定した。

別海町立野付小（打川真由美校長、74人）では、生活科の授業に近隣の幼稚園の年長の園児を招いて、鬼ごっこや折り紙などの交流をしている。教員同士も年4回顔を合わせ、情報交換する。教育の継続性を意識し、教育効果を上げる狙いがある。荒井咲子教諭（37）は「教員同士で行き来することで、幼稚園の子供とも顔を合わせられるし、子供との関わり方の違いも勉強になる」と話す。

登別市教委は、室蘭市内の小学校8校と室蘭、登別両市内の幼稚園や保育園の管理職、担当教員らの情報交換の場を設けている。目指す教育などについて相互に理解を深める機会となっているという。一部の小学校では、新1年生の授業の時間割を弾力的に運用。いきなり各教科45分の授業を始めるのではなく、15分ごとに区切って科目を変える取り組みも導入している。

(C) 北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。